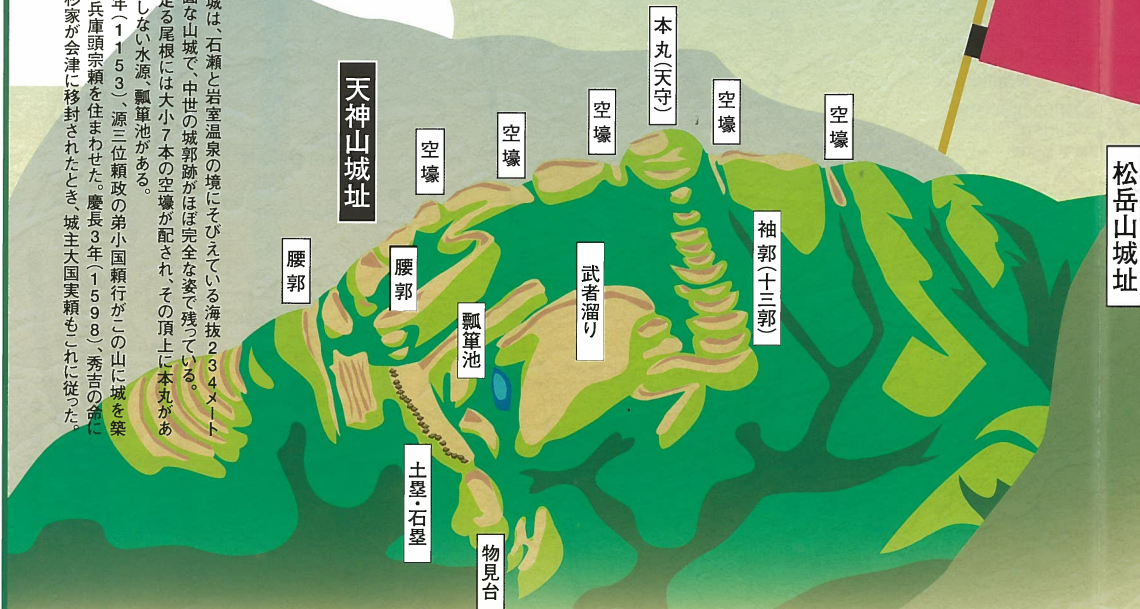


岩 | 室 | 温 | 泉

天神山城址

〔編集〕石瀬・岩室史跡保存会

天神山城は、石瀬と岩室温泉の境にそびえている海拔234メートルの堅固な山城で、中世の城郭跡がほぼ完全な姿で残っている。南北に走る尾根には大小7本の空壕が配され、その頂上に本丸があり、枯渇しない水源、瓢箪池がある。
仁平3年(1153)、源三位頼政の弟小国頼行がこの山に城を築き、嫡子兵庫頭宗頼を住ませた。慶長3年(1598)、秀吉の命により上杉家が会津に移封されたとき、城主大國実頼もこれに従った。

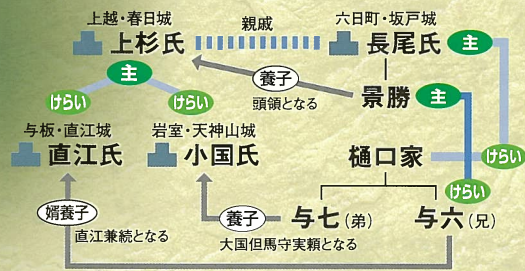


天神山城主 大國実頼
(てんじんざんじょうしゅ・おおくにさねより)

坂戸城主の家臣樋口家の次男与七実頼。「天地人」の主人公上杉景勝の家老直江山城守兼統の弟。
天正10年(1582)、上杉景勝の命により小国重頼の養子になり天神山城主となる。知行高9,041石は上杉家中では兄直江兼統に次ぐ屈指の大名。
天正15年(1587)、景勝の命により小国を大國に改め大國但馬守実頼となり、景勝の質使として聚楽第で秀吉に謁し、会津移封後は関東への護りの要、西会津の南山城24,300石の城主であった。

松岳山城址

小国氏と上杉氏・直江氏・樋口家



◆天神山城主【略年表】

名族小国氏は清和天皇を祖とする由緒正しい源氏の系統と伝えられている。

- 1153 (仁平3年) 源三位頼政の弟頼行
小国保に住み、小国氏を号し天神山に城を築き嫡子宗頼を住ませる
- 1176 (安元2年) 小国頼継(頼連)
天神山初代城主
(小国頼行嫡孫三郎)
- 1188 (文治4年) 小国頼連
頼政の子小太郎を養子として迎え、小国吉政と名づけ松岳山城を築き居城させ天神山城の支城とした
- 1335 (建武2年) 小国政光
新田義貞と共に鎌倉足利尊氏征討。政光率いる越後南朝軍として信濃川、阿賀野川に水軍を縦横無尽に進ませ北朝軍と戦った
- 1352 (正平7年) 小国頼景
天神山城松岳山城を復城
- 1554 (天文23年) 小国頼村
川中島に着陣し、武田晴信と合戦する(天正5)
上杉謙信武將17順位
- 1560 (永祿3年) 小国重頼
謙信公に属し攻城野戦で武勇あり、北条氏康と接戦して戦功あり
- 1582 (天正10年) 小国実頼
小国重頼の養子となり、天神山城主となる
- 1587 (天正15年) 大國実頼
上杉景勝の命により小国から大國但馬守実頼になり、豊臣秀吉の新築聚楽第に上杉家の質使として秀吉に謁する
- 1598 (慶長3年) 大國実頼
上杉家が会津移封となり、同時に大國氏も西会津に移り445年の間続いてきた天神山城は廃城となる



物見台【のろし台】
(ものだいののろしだい)

天神山城郭の東方端にあり、その眺望は開けており越後平野を一望できる尾根の上に位置している。
隣りの桔梗城はもとより、遠く正面の田上・護摩堂山まで遠望でき、大軍の往来が手に取るように観察でき見張り台・出丸である。



土壘・石壘
(ひょうたんいせき)

土や岩石を用いて、城郭を形成する各部所を攻撃や災害や事故崩壊等から防御するために人工的に構築された城壁城郭の一部。
天神山城における土壘、石壘は物見台や本丸を削平する時に発生した土を盛土して、大きな岩石は一部石垣に使用されたと推定される。



瓢箪池
(ひょうたんいけ)

城にとって大事な水源地である。この池の魅力は、その昔から真夏の湯水時期にも涸れたことがないと伝えられている清水池である。瓢箪池の云われは、上流が小さな丸池で下流が大きな池になっているその形から名づけられた。上流が飲料用で下流が日常用水か。天然記念物のモリアオガエルの生息地でもある。



武者溜り【三の丸】
(むじゃだまり・さんのまる)

天神山城郭のほぼ中心にあり、海拔180メートルに位置しており、いざの戦時の籠城時にはここを居住区として構え、瓢箪池を取り巻くように木敷状の郭を配している。その西方には広場があり、さらに北西側には三の丸の空壕へ続く13段の大小の木敷状の郭を設けてあり、北西側の護りとともに本丸への路を複雑に構築している。



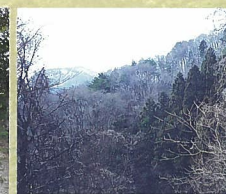
空壕【堀切】
(からぼり・ほりきり)

城郭の山頂部の尾根をV形に切り裂き主郭への敵の進入を困難としている。
大小の郭と空壕の構造配置により進入した敵をくい止める大事な防衛陣地である。



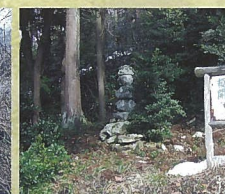
本丸【天守】
(ほんまる・てんしゅ)

南北に走る天神山城の尾根の最頂上にあり、海拔約234メートルに位置しており、北側に二の丸を配し大小7本の空壕に防護されている主郭。



牛道【大手路】
(うしみち・おおてじ)

種月寺本堂裏手の尾根を通り林道を歩き、さらに尾根づたえに登り最後の急斜面を登りきると本丸、二の丸の主郭にたどり着く。
この牛道が石瀬集落を結ぶ有一の軍事生活路であり城郭の正門入り口大手と考えられる。
※現在は、種月寺から林道までは登山禁止。



五輪塔
(ごりんとう)

中世の北陸道から少し離れて位置している五輪塔を、村の人たちは開基塚と呼んでおり、伝える所によると松岳山城主小国吉政の墓、または種月寺開基の上杉房朝の墳墓とも言われているが特定されていない。鎌倉時代の様式という。そこにあった松は「頼政の松」「開基の松」と言われている。



松岳山城址
(まつたけやまじょうし)

岩室温泉の中央にそびえている海拔174メートルの姿形の良い山で「岩室富士」とも呼ばれている松岳山の山頂にあった。源三位頼政が宇治川の戦に敗れ自害して果てた後、愛室の「菖蒲御前」は越後の小国氏を頼り、そして間もなく嫡男小太郎が誕生した。文治4年(1188)、時の天神山城主小国頼連が小国吉政と名づけ養子として迎え居城させた支城である。